

江戸時代中期における 北口本宮富士浅間神社の 中興と造営組織

はじめに 奈良文化財研究所では、2014年度より、山梨県富士吉田市に所在する北口本宮富士浅間神社（以下、北口本宮と略称する。）の建造物調査を実施している。前稿においては、江戸時代中期における富士信仰を背景に江戸の村上光清が主導した中興とその優れた意匠の概要をまとめ、甲斐国郡内地方の大工が造営に携わったことを述べた¹⁾。

今回の調査では、郡内地方に組織された大工仲間を統括し、北口本宮の造営にも携わった萱沼家の活動の実態についてあきらかにすべく関連遺構の調査をおこなった²⁾。本稿ではその概要をまとめ、北口本宮の江戸時代中期における中興の意義を再考したい。

関連遺構調査の概要 萱沼家の活動は、各社寺に棟札の記載と萱沼家に伝わる文書からその概要をあきらかにすることができる³⁾。このうち遺構が現存する可能性が高い16件の社寺において建築史的調査を実施し、すべての社寺において、前近代の遺構を見出し、少なくとも23棟を関連遺構とみる（表13）。

活動範囲と時期 現存遺構は、現在の自治体の区分で、富士吉田市、富士河口湖町、忍野村、山中湖村の4市町村に渡り、郡内地方の南部に広がる。

萱沼家が造営に関わったことが明確な現存最古の遺構は、天和4年（1684）の山中諏訪神社本殿である。しかし、活動自体は、さらに古く、慶長5年（1600）の北口本宮

の神輿の棟札に確認できる。また、慶長18年（1613）の浅間神社（忍野八海）本殿の棟札には、その後、歴代当主が襲名した「萱沼弥左衛門」の名が見える。この本殿は宝永2年（1705）に再建されており、萱沼家が継続的に関わっていたことも確認できる。新しいものでは、文政～慶応年間におけるの東円寺の造営があり、現存する（図50）。江戸時代を通じて、活動していたことが、文献資料と現存遺構の両面から確認できる点において、全国的にみても貴重な事例の1つである。

意匠の特徴 江戸時代中期における北口本宮の中興による建造物の特徴として、彫刻や彩色にあふれた豊かな意匠性がある。このような傾向は、浅間神社（忍野八海）本殿（図47）に、その端緒を確認することができる。

装飾の面では、享保5年（1720）の造営と、安永2年（1773）における修理と2度に渡って関わった浅間神社（忍野村内野）本殿が非常に発達した意匠をみせ、軒下の組物などは修理に際したものと考えられる（図48）。最初の造営と修理の間には、北口本宮の一連の造営活動があり、そこで培われた技術が、この社殿にもあらわれたとみることができる。高い意匠性は、神社社殿のみならず、寺院においても発揮された。宝暦10年（1760）の福源寺太子堂は、禅宗様を基調とした六角円堂であり、特異な平面形式を高い技術でまとめている（図49）。

造営の規模 萱沼家が手掛けた遺構のうち、前述の享保5年の浅間神社（忍野村内野）本殿以前は、神輿も含めて、比較的規模の小さな社殿を手掛けている。そして、享保6年（1721）の正福寺本堂以降、規模の大きな堂宇



図47 浅間神社（忍野八海）本殿



図48 浅間神社（忍野村内野）本殿 軒下見上げ

表13 萱沼家関連遺構一覧

No.	年代	西 暦	名 称	根 拠	所在地
1	天和 4 年	1684	山中諏訪神社本殿	頭貫墨書	山梨県南都留郡山中湖村山中
2	宝永 2 年	1705	浅間神社(忍野八海) 本殿	棟札	山梨県南都留郡忍野村忍草
3	享保 5 年	1720	浅間神社(忍野村内野) 本殿	棟札	山梨県南都留郡忍野村内野
4	享保 6 年	1721	正福寺本堂	萱沼家文書	山梨県富士吉田市新倉
5	享保 9 年	1724	福源寺太子堂	擬宝珠銘	山梨県富士吉田市下吉田
	享保18年	1733	北口本宮富士浅間神社 中興起工		山梨県富士吉田市上吉田
6	元文 5 年	1740	富士御室浅間神社本殿(修理)	棟札	山梨県南都留郡富士河口湖町勝山
7	寛保 3 年	1743	西方寺本堂	位牌銘	山梨県富士吉田市小明見
8	延享 5 年	1748	天神社本殿	萱沼家文書	山梨県富士吉田市下吉田
9	宝暦 2 年	1752	西方寺庫裏	萱沼家文書	山梨県富士吉田市小明見
10	宝暦10年	1760	福源寺本堂	擬宝珠銘	山梨県富士吉田市下吉田
11	宝暦12年	1762	漣神社本殿	萱沼家文書	山梨県富士吉田市新屋
12	明和 4 年	1767	小室浅間神社本殿	萱沼家文書	山梨県富士吉田市下吉田
13	明和 8 年	1771	円通寺庫裏	寺伝	山梨県南都留郡富士河口湖町船津
3'	安永 2 年	1773	浅間神社(忍野村内野) 本殿(修理)	棟札	山梨県南都留郡忍野村内野
14	安永 2 年	1773	浅川阿弥陀堂	萱沼家文書	山梨県南都留郡富士河口湖町浅川
15	天明 6 年	1786	円通寺本堂および玄関	萱沼家文書	山梨県南都留郡富士河口湖町船津
16	寛政元年	1789	西方寺山門	萱沼家文書	山梨県富士吉田市小明見
17	寛政 7 年	1795	如来寺太子堂	萱沼家文書	山梨県富士吉田市新倉
18	享和 2 年	1802	承天寺鐘楼	『忍野村史』	山梨県南都留郡忍野村内野
19	文化11年	1814	大正寺鐘楼	擬宝珠銘	山梨県富士吉田市新倉
20	文政 3 年	1820	如来寺本堂	棟札	山梨県富士吉田市新倉
21	文政 4 年	1821	東円寺本堂	棟札	山梨県南都留郡忍野村忍草
22	弘化 4 年	1847	東円寺庫裏	萱沼家文書	山梨県南都留郡忍野村忍草
23	慶応元年	1865	東円寺鐘楼門	『忍野村史』	山梨県南都留郡忍野村忍草

北口本宮
中興期

の造営が確認でき、その最大の規模を誇るのが、北口本宮の幣殿および拝殿と位置付けられる(巻頭図版2)。

まとめ 以上、萱沼家が造営に関わった遺構群をみると、郡内地域における北口本宮の造営の意義がよりあきらかになる。萱沼家は、江戸時代を通じて、大工としての活動が確認できた。北口本宮の造営は、そのなかでも最大規模を誇り、それまでに培われた高い技術力を遺憾なく発揮したものといえる。その後の郡内地方における造営にも、高い影響を与えたことも高く評価するべきであろう。

(鈴木智大)

謝辞

本調査にあたりましては、調査対象とした社寺の方々、萱沼家の方々、田邊泰人氏(京都府教育庁)をはじめ多くの方々に協力いただきました。ここに記して、感謝いたします。



図49 福源寺太子堂



図50 東円寺本堂

註

- 1) 鈴木智大「江戸時代中期における北口本宮富士浅間神社の中興と意匠」『紀要 2015』62-63頁。なお、前稿の後、山岸吉弘「北口本宮富士浅間神社の享保期における境内整備と郡内大工」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』2015、241-242頁)が発表された。文献資料からあきらかになる造営組織の変遷について、まとめられている。
- 2) 個別調査について、以下の論考がある。申田優子「郡内大工萱沼家の建築遺構に関する調査研究」『日本建築学会関東支部研究報告集』Ⅱ(73)、401-404頁、2003。田邊泰人・藤沢彰「小室浅間神社本殿の造営とその過程について」『日本建築学会技術報告集』39、761-764頁、2012。
- 3) 棟札については、『山梨県棟札調査報告書 郡内Ⅱ・河内Ⅱ・補遺』(山梨県、2005)を、萱沼家文書については、『古文書所在目録 第2集』(富士吉田市、1982)、『古文書所在目録 第17集』(富士吉田市、1990)を、参照した。